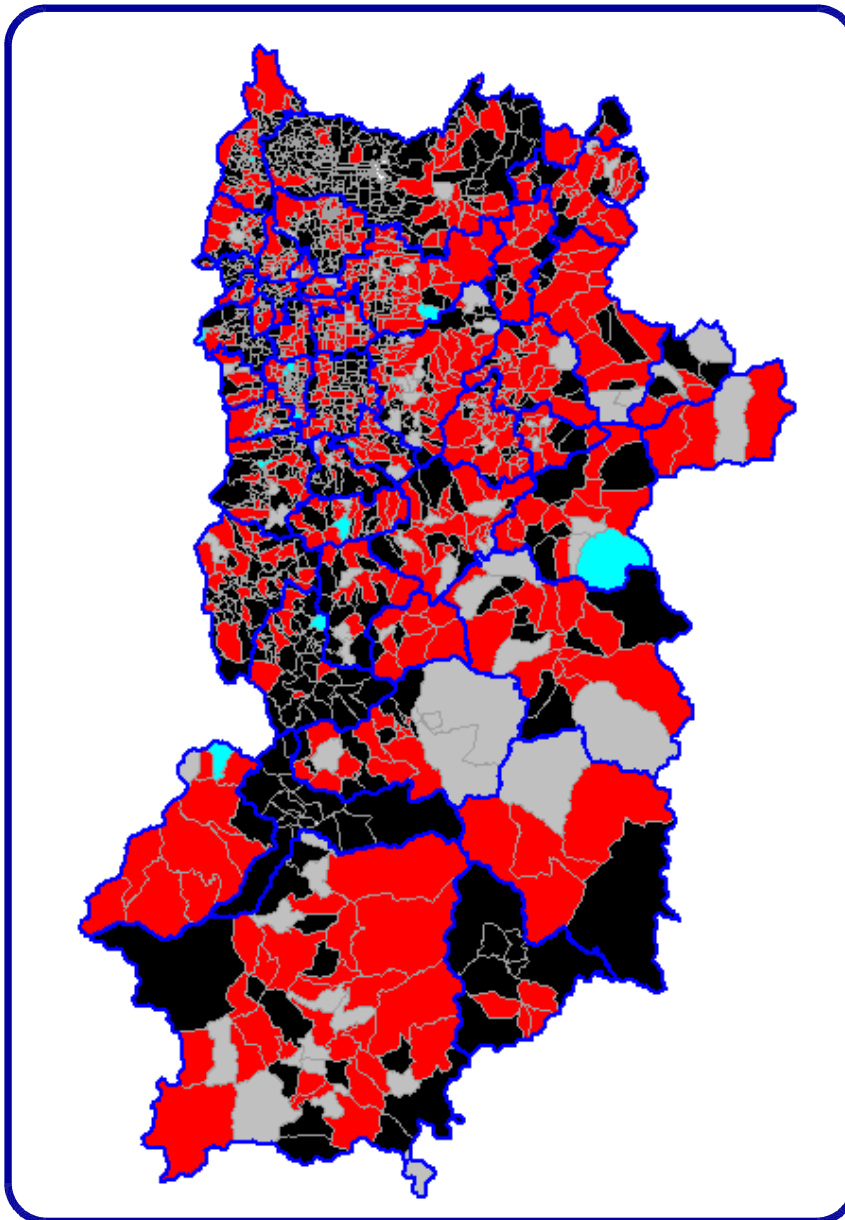


# 農業・林業集落アンケート調査によるカラスの生息状況・被害状況(平成22年度)

## 1. 平成22年度農業集落アンケート調査によるカラスの分布



左図は、平成22年度の農林業集落アンケート調査による、カラスの分布である。

農業集落でカラスが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

カラスは都市環境や農耕地から、奥地森林まで各環境に生息しているが、本設問の回答もそのようなカラスの生態を反映しており、ほぼ県内全域から「いる」との回答があった。

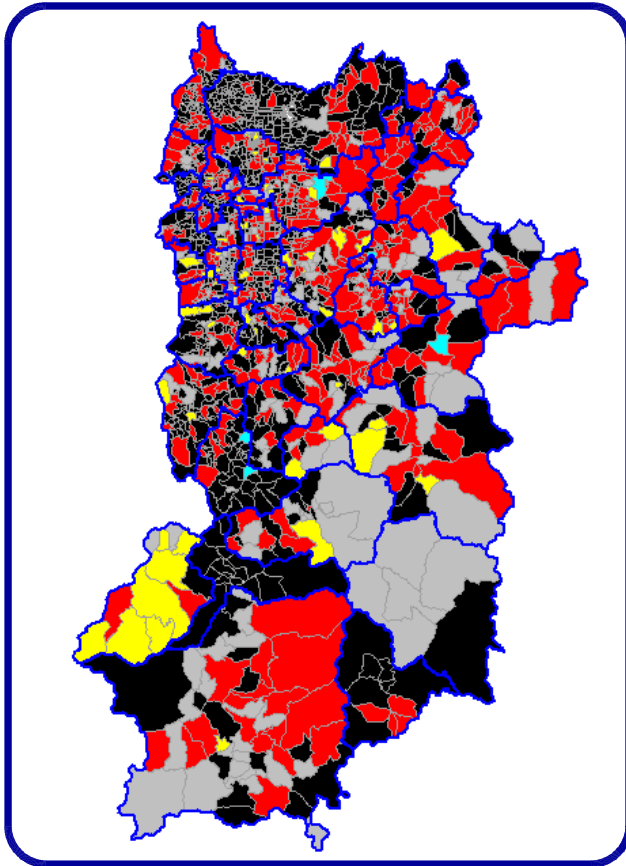
なお、ここでいう「カラス」は、ハシボソガラス及びハシブトガラスである。

平成22年度	
■ いる	639集落
■ いない	16集落
■ 回答無し	93集落
■ 回収無し	1060集落
計	1808集落

参考)平成21年度	
■ いる	678集落
■ いない	109集落
■ 無回答	0集落
■ 回収無し	1021集落
計	1808集落

凡例 図中 青線 旧市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界  
 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

## 2. カラスの農地・集落周辺への出没



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、カラスの農地・集落周辺への出没状況である。

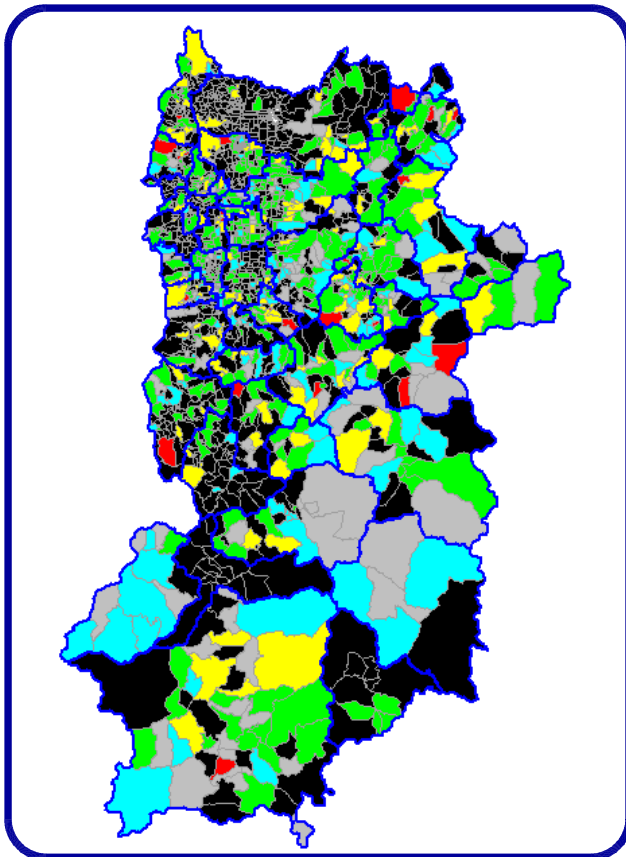
カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった559集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」との回答は、ほぼ県内全域から回答があり約88%になった。

・平成22年度	
よく見る	491集落(87.8%)
たまに見る	62集落(11.1%)
あまり見ない	6集落(1.1%)
回答数	559集落

・参考)平成21年度	
よく見る	517集落(86.0%)
たまに見る	77集落(12.8%)
あまり見ない	7集落(1.2%)
回答数	601集落

## 3. カラスの農業被害の大きさ



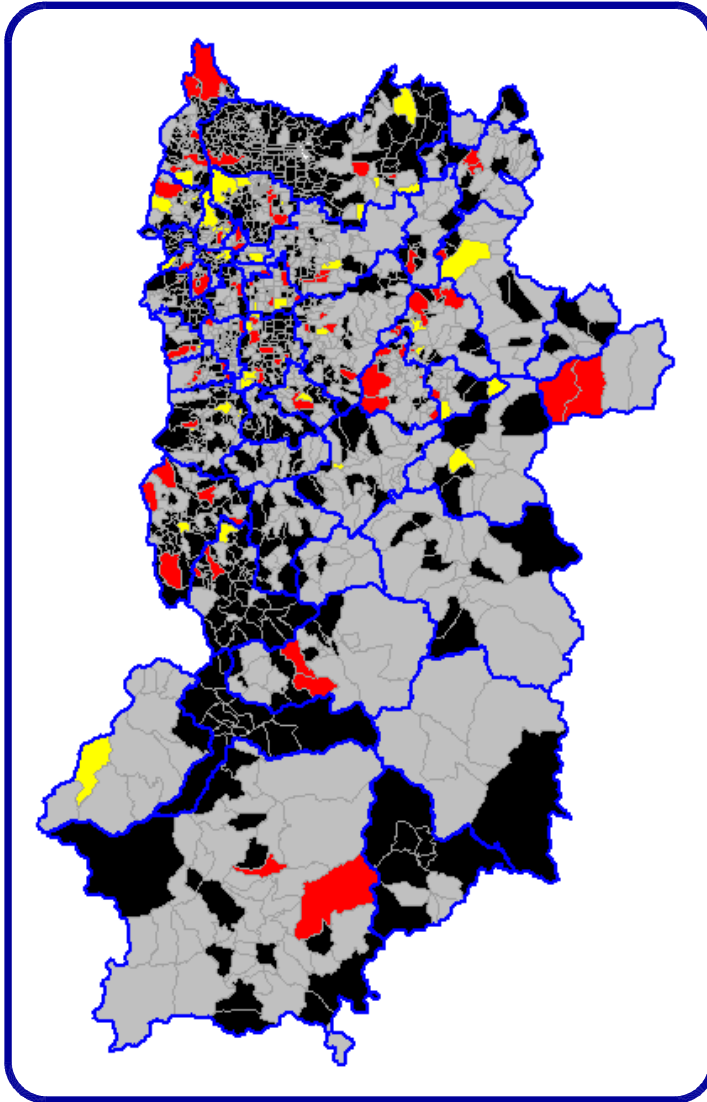
左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、カラスによる農業被害の大きさの意識調査の結果である。カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった594集落の内訳は下記の通りである。

カラスの農業被害は、「軽微」なものが約54%と最も多かった。しかし、「大きい」と「深刻」を併せたものは約25%となり、かつ県内に広くみられる。地域の状況によっては農業被害は大きくなると考えられる。

・平成22年度	
ほとんど無い	135集落(21.8%)
軽微	333集落(53.9%)
大きい(生産量の30%未満)	126集落(20.4%)
深刻(生産量の30%以上)	24集落(3.9%)
回答数	618集落

・参考)平成21年度	
ほとんど無い	139集落(21.1%)
軽微	348集落(52.9%)
大きい(生産量の30%未満)	145集落(22.0%)
深刻(生産量の30%以上)	26集落(4.0%)
回答数	658集落

#### 4. カラスの衛生被害



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、カラスによる衛生被害の意識調査の結果である。

衛生被害は、県北西部の奈良盆地とその周辺地域で多い傾向にあった。

・平成22年度

■ 通年で糞被害等がある 91集落  
■ 秋～冬に糞被害などがある 45集落

・平成21年度

■ 通年で糞被害等がある 102集落  
■ 秋～冬に糞被害などがある 53集落

別途設問では、衛生被害の発生要因についてを問うたが、回答は合計29件あった。

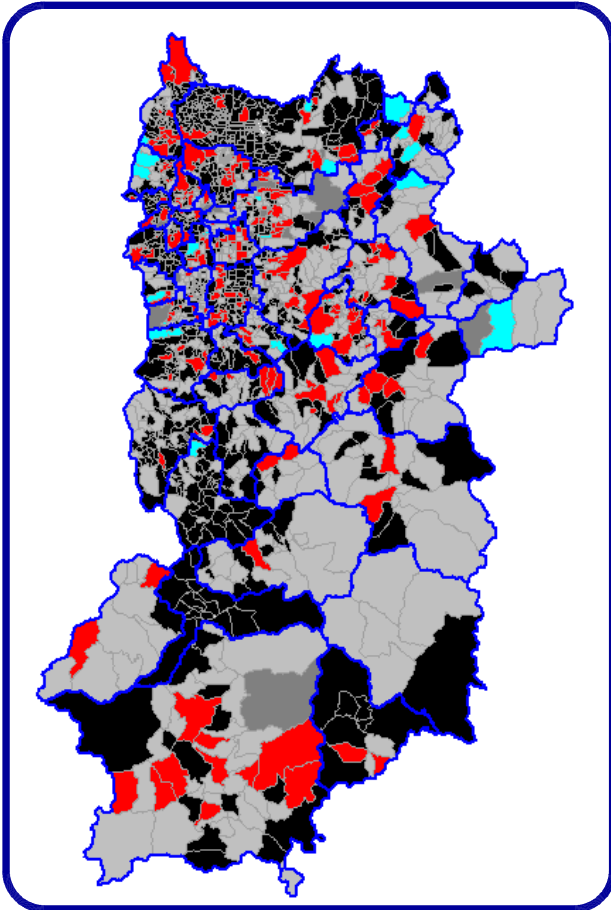
その発生要因のうち、ゴミ収集日にゴミ集積所で生ゴミをあさる等のゴミを捨てることに関する要因が16件と約半数を占め最も多くなっていた。これらは各家庭からのゴミの捨て方や、ゴミ集積所ではゴミ袋を黄色いネットで覆うなど簡単な処理で被害を防止することが可能である。住民に普及啓発し、改善することが重要である。また、農作物の収穫残渣も要因として挙げられているが、収穫残渣は他の鳥獣害を引き起こす原因にもなるため、改善が必要である。

その他の発生要因には、大規模な生ゴミ排出所や産廃処理場に関する要因、農作物の収穫残渣などが挙げられていた。

○衛生被害の要因として、ゴミ捨て関係が挙げられていた市町村

大和郡山市:2件、 天理市:2件、 橿原市:2件、 桜井市:1件、 五條市:1件、 御所市:3件、  
葛城市:1件、 宇陀市2件、 三宅町1件、 田原本町:1件

## 5. カラスの被害対策 防鳥ネットの効果(農地)



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、カラスの農業被害対策の、防鳥ネットの設置による効果の意識調査の結果である。

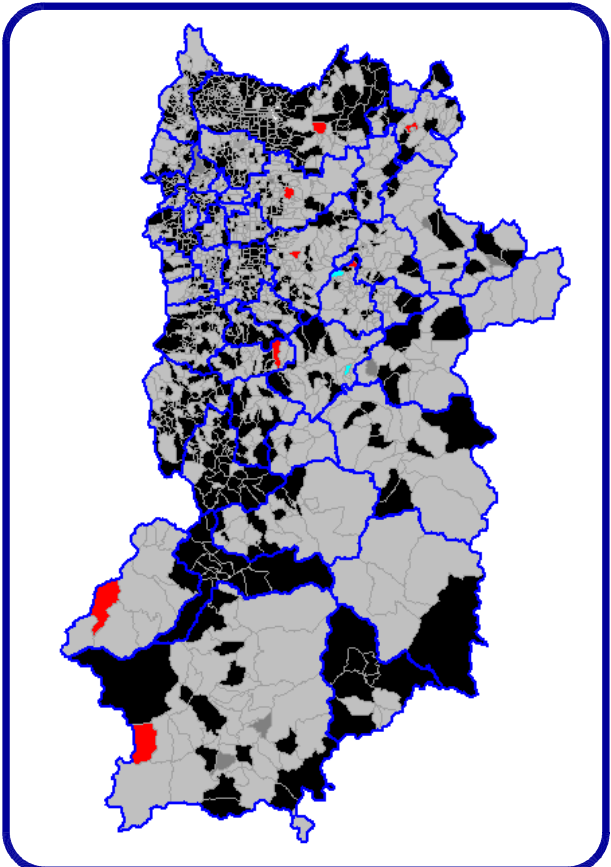
カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった237集落の内訳は下記の通りである。

防鳥ネットは農業被害対策として、効果が非常に高いことがわかる。

■ 効果があった	212集落 (89.5%)
■ 効果がなかった	25集落 (10.5%)
回答数	237集落

その他、テグスなどの糸・ラインを張り巡らすことによって効果的な防除を実施しているものが、12集落(効果無しは2集落)あった。

## 6. カラスの被害対策 有害捕獲の効果(農地)



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

本設問の回答は、10集落のみからであった。

■ 効果があった	8集落
■ 効果がなかった	2集落
回答数	10集落